

1. 調査場所

一般的な住宅街を想定して住宅展示場等で実施する。

2. 調査時期等

11月から12月頃の日中とし、悪天候の際は実験を行わない。
なお、あわせて、気象状況や周囲の騒音等を測定する。

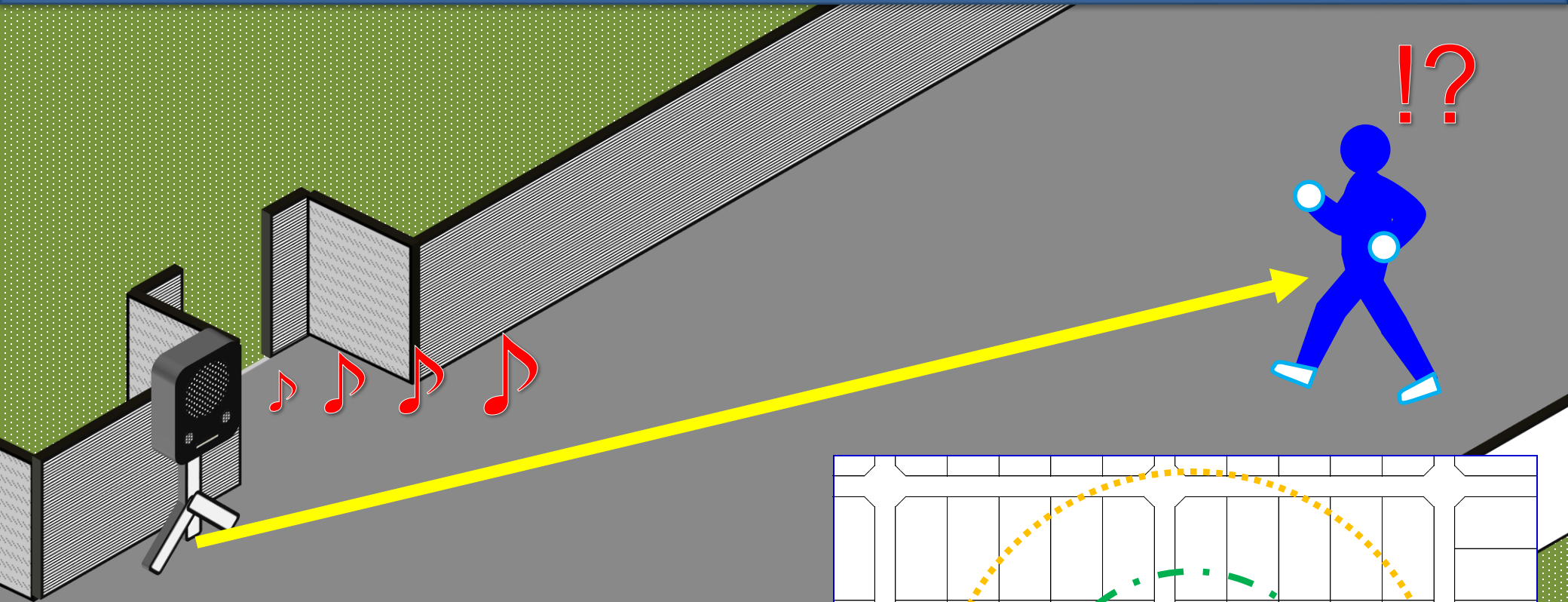
3. 検証対象者

- (1) 20代から60代までの男女とする。(通行人を想定)
- (2) 視力、聴力等が日常生活において支障がない方を対象とする。

4. 検証方法

- (1) 検証対象者を機器から約50m離れた場所から機器を直接確認できるルートで歩行させて、警報音等に気づいた位置を計測する。特に10m離れた場所での気付きやすさのデータは重要である。
- (2) 音について
 - a. 警報音の発生装置の中心の位置の高さが145cm±5cmとなるよう設置する。
 - b. 音圧は、スピーカーの中心から前方1m離れた位置で、60dB・70dB・80dBとする。
 - c. 音の種類は、代表的な住宅用火災警報器の警報音(音声あり)とする。
- (3) 検証対象者に対してアンケートを実施する。

屋外警報装置等の検証実験(案)について



1. 検証実験

- (1) 音が聞こえた距離
 - (2) 警報音と認識できた距離
- ## 2. 気象条件等の測定及び記録
- ## 3. アンケート
- (1) 音声の有効性について

